

徳島県立鳥居龍蔵記念博物館年報

第 13 号 (令和 4 年度)

Annual Report of the Tokushima Prefectural Torii Ryuzo Memorial Museum
No.13 (for the fiscal year of 2022)

目 次

I 展覧事業	2	V 台湾との交流	16
1. 常設展		1. 国立台湾史前文化博物館との連携協定の締結	
2. 企画展		2. 文化庁 Innovate MUSEUM 事業	
3. その他の展示		3. 台湾への訪問	
4. 展示関係出版物			
II 調査研究事業	6	VI 管理運営	23
1. 令和4年度の調査概要		1. 組織・職員	
2. 研究成果の公表		2. 防災及び危機管理	
		3. 鳥居龍蔵記念博物館協議会	
		4. 視察等来訪者	
III 資料収集保存事業	8	VII 観覧者統計	25
1. 館蔵資料数			
2. 写真・映像等の提供		VIII 施設の概要	27
3. 資料閲覧		1. 沿革	
4. 資料整理ボランティア		2. 施設の概要	
5. 資料の保存			
IV 普及教育事業	10	IX 例規	28
1. 普及行事			
2. 学校教育の支援			
3. 講師の派遣			
4. テレビ・ラジオへの出演			
5. 徳島新聞連載への協力			
6. インターネットによる情報発信			
7. 鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム			
8. 鳥居龍蔵記念 全国高校生歴史文化フォーラム			
9. 普及教育関係出版物			

I 展覧事業

鳥居龍蔵記念博物館の展示は、常設展と企画展、その他の展示からなる。

常設展は、鳥居龍蔵の生涯と研究業績を分かりやすく学ぶことができるよう3つの展示室で構成している。

東アジア各地における鳥居の調査ルートを示すLEDランプで示す床地図、遼王朝の陵墓の復元模型とともに、収集した資料や写真を通して鳥居の足跡が学べる展示内容としている。土器パズルや民族衣装などの体験学習キット、映像資料が検索・閲覧できるパソコンや、随時展示替えする「トピックコーナー」も設置している。ただし、令和4年度も、3年度に引き続き新型コロナウイルス感染症対策のため、土器パズルと民族衣装の使用を取りやめた。

また、常設展以外に、期間を限定して、特定のテーマに即して開催する企画展等がある。4年度は、企画展を1回、その他の展示を3回開催した。

1. 常設展

(1) 展示構成

■第1展示室 鳥居龍蔵の見たアジア

鳥居龍蔵のアジア調査の成果について、地域別に概観できるよう構成している。写真や民族・考古資料を幅広く紹介している。

1. 台湾・中国西南部
2. 中国東北部・内モンゴル
3. 遼
4. 朝鮮半島
5. 千島列島・サハリン・シベリア
6. 日本列島

■第2展示室 鳥居龍蔵の生涯

人類学を志した徳島での少年時代から、やがて東京に移ってからの研究、家族とともに携わった調査など、生涯にわたる足跡や多彩な交流の様子を紹介している。

1. 人類学への志
2. 家族とともに
3. 南アメリカ

■第3展示室 鳥居龍蔵から学ぶもの

検索機能を備えたパソコンを設置したり書籍を配架したりして、鳥居の学問的な成果が学べるとともに、

子どもも楽しめる体験学習キットを用意している。

1. 情報コーナー（パソコンを使った鳥居龍蔵撮影の写真の検索・閲覧や番組型コンテンツの提供）
2. 体験展示（カメラ体験）
3. 図書コーナー（鳥居龍蔵の著作などの閲覧用提供）

(2) トピックコーナーの展示替え

第2展示室内の一部をトピックコーナーとし、整理の進んだ資料を中心に、随時展示替えを行っている。4年度の実績は次のとおりである。

●フィールドのコミュニケーション

―第1回台湾調査より―

令和3年度〔11月30日（火）〕～4月3日（日）

展示資料4点（館蔵資料4点）

鳥居が最初に行った台湾調査（1896年）のなかで描かれた絵画資料をもとに、彼の調査活動を紹介した。

●鳥居龍蔵、北京西方の石窟を探る

4月5日（火）～7月10日（日）

展示資料8点（館蔵資料8点）

1939年、鳥居は北京の西にある張家口市下花園で、埋没した石窟寺院を調査した。調査当時の写真をもとに、鳥居の調査成果を紹介した。

●鳥居龍蔵の見た朝鮮半島の近代

―運輸・生活・生業の視点から―

7月12日（火）～11月13日（日）

展示資料7点（館蔵資料7点）

鳥居は1916年9月から12月にかけて、6度目の朝鮮半島調査を行う傍ら、妻きみ子に宛てて何通もの絵はがきを送っていた。これらに掲載された写真をもとに、当時の朝鮮半島の社会の一面を紹介した。

●鳥居龍蔵が見た120年前の沖縄

11月15日（火）～令和5年度〔4月16日（日）〕

展示資料7点（館蔵資料7点）

鳥居が1904年6月から8月にかけて沖縄島や八重山諸島で行った調査のうち、詳細があまり知られていない民俗調査について、彼が残した写真やスケッチをもとに紹介した。

2. 企画展

(1) 企画展「鳥居龍蔵をめぐる人々 —世界に広がる学知のネットワーク—

鳥居龍蔵は、十代の後半に人類学に興味を持つようになり、1890年(明治23)年、20歳のときに故郷徳島を離れて東京へと旅立ち、研究者としての第一歩を踏み出した。そして研究を深めていく中で、学界や在野の研究者、研究や生活を支援した政財界の人々などとの関係を広げ、「学知のネットワーク」を形成していった。それは、彼の研究活動の拡大に伴い、海外にまでも及ぶものであった。

本企画展では、鳥居の学問を支えた「学知のネットワーク」に位置づけられる人々を取り上げ、鳥居との交流について紹介した。

- 主催 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
徳島県立博物館
- 会場 徳島県立博物館企画展示室
- 会期 2月4日(土)～3月12日(日)
(開館日数32日)
- 展示構成と主な展示資料
第1章 学界の人々
第2章 在野の研究者たち

- 第3章 故郷の人々
- 第4章 政財界の人々
- 第5章 海外の研究者たち

●展示資料総点数 108点(館蔵資料91点)

●観覧料

一般 200円(65歳以上100円)
高校・大学生100円、小・中学生50円

●観覧者数 1,247人

●関連行事

①記念講演会

日時 3月5日(日)

13:30～15:00

会場 文化の森 多目的活動室

講師 中村 豊氏(徳島大学教授)

演題 「鳥居龍蔵とその教え子達—日本考古学(縄文時代)研究とのかかわりのなかで—」

参加者 28人

②展示解説

第1回 2月5日(日)

13:30～14:30 参加者 20人

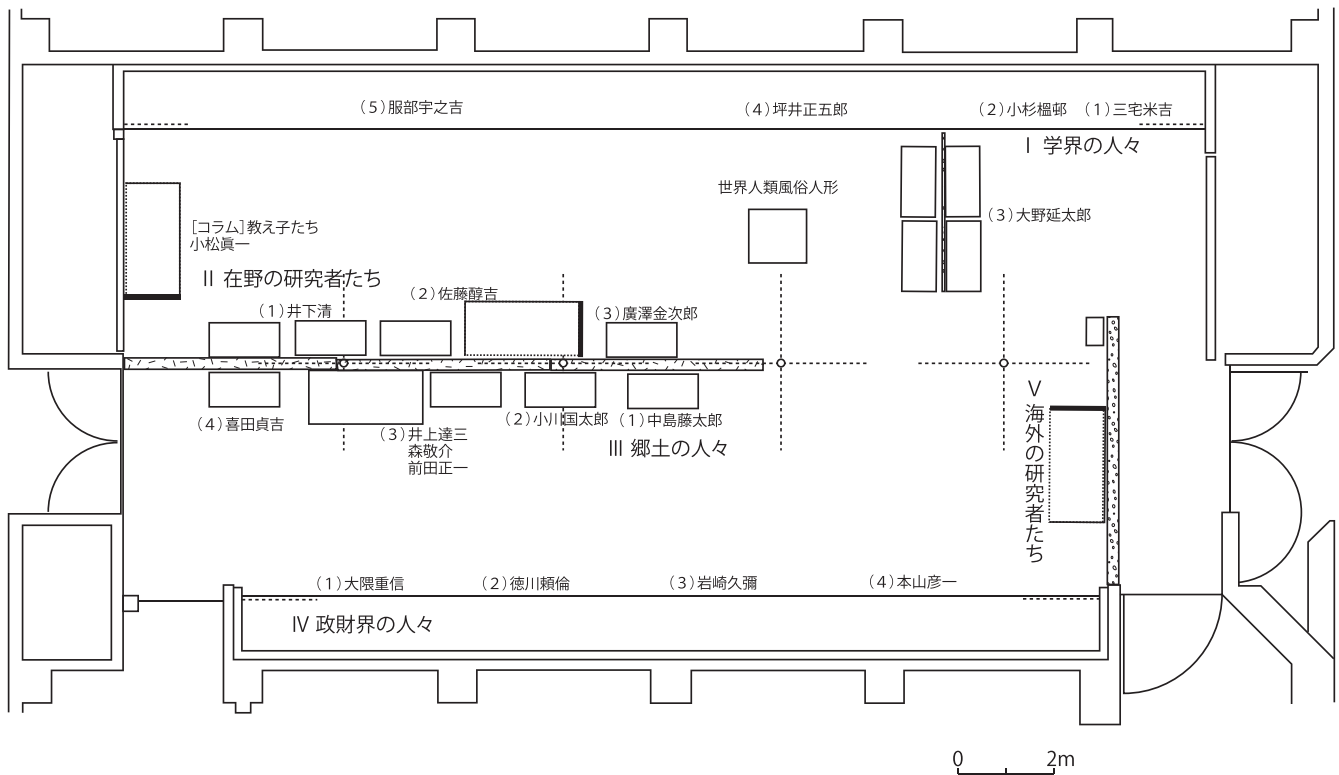
第2回 2月11日(土・祝)

13:30～14:30 参加者 22人



企画展「鳥居龍蔵をめぐる人々」チラシ(左:表面、右:裏面)

4 展覧事業



企画展「鳥居龍蔵をめぐる人々」の展示配置



記念講演会の様子

- 第3回 2月26日(日)
13:30～14:30 参加者 10人
- 第4回 3月5日(日)
15:15～16:00 参加者 8人

3. その他の展示

(1) 2階中央ロビーでの展示

常設展示室前の2階中央ロビーで、小規模な展示を行った。

●鳥居龍蔵の見た遼代の仏塔

鳥居が中国東北部や内モンゴルで調査した遼代の仏塔を紹介した。

期 間 8月2日(火)～11月13日(日)

展示資料 7点(館蔵資料7点)

(2) 地域交流企画「鳥居龍蔵が見た120年前の木頭」

鳥居が行った木頭調査について、当館が所蔵するフィールドノートや、東京大学総合研究博物館が所蔵する写真資料を紹介した。

●移動展「鳥居龍蔵の見た120年前の木頭」

主 催 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館、徳島県立博物館、那賀町木頭図書館

後 援 那賀町教育委員会、徳島新聞社

会 期 8月6日(土)～9月10日(土)

(開館日数36日)
 会場 木頭文化会館ロビー
 展示資料 47点 (館蔵資料1点)
 関連行事 講演会
 日時 8月14日(日) 13:00～16:00
 会場 木頭文化会館
 内容 講演 磯本宏紀氏(徳島県立博物館)「木頭の太布について」
 講演 石井伸夫「鳥居龍蔵の木頭調査について」
 トークセッション「木頭の太布」
 参加人数 33人

●「鳥居龍蔵の見た120年前の木頭」(文化の森展)
 主催 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館、徳島県立博物館
 期間 11月15日(火)～1月8日(日)
 会場 文化の森4館棟2階エントランス
 展示資料 47点(館蔵資料なし)
 特別講演 日時 11月27日(日)
 13:30～16:00



木頭文化会館ロビーにおける展示風景



文化の森における展示風景

会場 徳島県立博物館3階講座室
 講師 磯本宏紀氏(徳島県立博物館)
 「木頭の太布について」
 玄番真紀子氏(那賀町木頭図書館)
 「木頭民俗調査に参加して」
 石井伸夫
 「鳥居龍蔵の木頭調査について」
 参加人数 28人

(3) 2022年度文化の森人権啓発展

文化の森6館と徳島県教育委員会人権教育課の共催で、人権問題啓発展(識字学級生の作品を中心とする展示)を行った。

- 主催 文化の森6館、徳島県教育委員会人権教育課
- 期間 12月7日(水)～12月13日(火)
- 会場 近代美術館ギャラリー(展示)
 二十一世紀館ミニシアター(ビデオ上映)
- 入場者数 262人

4. 展示関係出版物

- 企画展「鳥居龍蔵をめぐる人々」パンフレット
 2023年2月4日発行、A4判、8ページ、2,000部



企画展パンフレット「鳥居龍蔵をめぐる人々」の表紙

Ⅱ 調査研究事業

鳥居龍蔵記念博物館では、設置の趣旨にもとづき、鳥居龍蔵とその周辺に関する調査研究を進めることで、最新の情報を盛り込んだ展示や内容豊かな普及活動による鳥居龍蔵の顕彰を図るための基盤整備を進めている。とくに、館蔵資料に即した調査研究に重点を置いて取り組んでいる。

令和4年度は、専任の学芸スタッフ3名を中心に、兼務職員とともにこの業務に携わった。

1. 令和4年度の調査概要

(1) 館外研究者との共同調査

館外の研究者とともに次のとおり資料調査を行い、相互に研究の進展を図った。

●国立台湾史前文化博物館とのオンライン研究会

6月11日（土）に、国立台湾史前文化博物館とのオンライン研究会を実施した。当日は、宮岡真央子氏（福岡大学）にも参加してもらった。

●科学研究費助成事業「民族誌アーカイブズとフィールド調査の接合による植民地初期台湾の先住民族社会の探究」（代表：野林厚志氏〔国立民族学博物館〕の資料調査と研究会

7月23日（土）に、国立民族学博物館で資料調査を行うとともに、研究会に参加した。研究会には、林淑美氏（京都大学）が参加したほか、角南聡一郎氏（神奈川大学）、宮岡真央子氏（福岡大学）、清水純氏（日本大学）がオンライン形式で参加した。

●科学研究費助成事業「台湾「原住民運動」前史の生活世界の変容と実践：写真アーカイブスによる人類学的探究」（代表：宮岡真央子氏〔福岡大学〕の研究会と資料調査

8月24日（水）に、当館で研究会を実施した。宮岡氏、田本はる菜氏（成城大学）、野林厚志氏（国立民族学博物館）が参加し、森口恒一氏（静岡大学名誉教授）、岡田紅理子氏（ノートルダム清心女子大学）、松岡格氏（獨協大学）がオンライン形式で参加した。また、8月25日（木）には、宮岡氏、田本氏、野林氏とともに、当館で資料調査を行った。



国立台湾史前文化博物館とのオンライン研究会



宮岡真央子氏が主宰する科学研究費助成事業のメンバーと行った資料調査

(2) フィールドノート講読会

当館は、鳥居龍蔵が台湾調査の際に作成したフィールドノート群を所蔵している。それらに関する調査は、鳥居が行った台湾調査の具体相を解明する上で不可欠な作業である。そこで4年度から、フィールドノートの講読会を開始した。その開催日程と各回の担当者は以下のとおりである。

- 5月27日（金） 松永友和
- 6月29日（水） 石井伸夫
- 7月26日（水） 小林篤正
- 8月30日（火） 長谷川賢二
- 9月20日（火） 小林篤正
- 10月26日（水） 野林厚志氏（国立民族学博物館）
- 11月24日（木） 石井伸夫
- 12月22日（木） 松永友和
- 1月17日（火） 石井伸夫、小林篤正
- 1月25日（水） 松永友和、野林厚志氏

2月21日（火） 石井伸夫

大橋俊雄（2023.3）（龍蔵を巡る人々—碩学と社会のインターフェイス—）森 敬介．NEWS LETTER, (3) : p. 6.

2. 研究成果の公表

(1) 公表論文・報告・記事等一覧

〈一般著述〉

石井伸夫（2022.4）（日本人の起源を探る 鳥居龍蔵知の旅⑪）身体測定．徳島新聞 2022.4.16

松永友和（2022.8）（日本人の起源を探る 鳥居龍蔵知の旅⑭）支援者・本山彦一．徳島新聞 2022.8.3

石井伸夫（2022.9）（日本人の起源を探る 鳥居龍蔵知の旅⑮）ドルメン．徳島新聞 2022.9.13

長谷川賢二（2022.11）（日本人の起源を探る 鳥居龍蔵知の旅⑰）知られざる論文「苗族研究」．徳島新聞 2022.11.18

小林篤正（2023.1）（日本人の起源を探る 鳥居龍蔵知の旅⑲）沖縄の調査．徳島新聞 2023.1.29

石井伸夫（2023.2）（日本人の起源を探る 鳥居龍蔵知の旅⑳）現地住民との意思疎通．徳島新聞 2023.2.21

長谷川賢二（2023.3）（日本人の起源を探る 鳥居龍蔵知の旅㉑）学説の影響力．徳島新聞 2023.3.28

石井伸夫（2022.9）（資料でたどる、鳥居龍蔵の学問と生涯）第2章 上京、海外調査、そして結婚．NEWS LETTER, (2) : p. 2-3.

下田順一（2022.9）（ゆかりの地今昔）三谷遺跡．NEWSLETTER, (2) : p. 7.

松永友和（2022.9）（資料整理の最前線）鳥居龍蔵の近畿調査—本山彦一書簡より—．NEWSLETTER, (2) : p. 5.

小林篤正（2022.9）（鳥居龍蔵に学ぶ「地域学」）段の塚穴古墳群．NEWSLETTER, (2) : p. 6.

大橋俊雄（2022.9）（龍蔵を巡る人々—碩学と社会のインターフェイス—）須木一胤．NEWS LETTER, (2) : p. 7.

松永友和（2023.3）（今季の逸品）鳥居龍蔵あて坪井正五郎の絵葉書．NEWS LETTER, (3) : p. 1.

石井伸夫（2023.3）（資料でたどる、鳥居龍蔵の学問と生涯）第3章 青年研究者・鳥居龍蔵の挑戦—台湾から沖縄、そして千島へ．NEWS LETTER, (3) : p. 2-3.

下田順一（2023.3）（ゆかりの地今昔）美田遺跡．NEWS LETTER, (3) : p. 4.

長谷川賢二（2023.3）（資料整理の最前線）東京帝国大学の辞令．NEWS LETTER, (3) : p. 5.

(2) 学会・研究会等での報告

石井伸夫（2022.8）鳥居龍蔵の第一回台湾調査 スケッチブックの検討．科学研究費・基盤研究(B)「台湾「原住民運動」前史の生活世界の変容と実践：写真アーカイブスによる人類学的探究」（代表：宮岡真央子氏）2022年度第2回研究会

Ⅲ 資料収集保存事業

鳥居龍蔵記念博物館では、鳴門市にあった旧館（鳥居記念博物館）から引き継いだ資料の詳細な調査・整理やデータ登録、保存を資料収集保存事業の中心としている。令和4年度は、会計年度任用職員2名の補助を得て作業を進めた。

また、鳥居龍蔵に関連する資料の新規購入にも努めた。4年度以降も引き続き、新規収集を心がけていきたい。

1. 館蔵資料数

考古資料・民族資料・書籍類・写真・拓本・自筆原稿・書簡等の総数は約70,000点である。調査・整理を継続しており、実数は未だつかめていないが、未開封だった資料の精査が進んできたため、総数は増加傾向にある。

また、4年度は、今後の企画展等の開催計画や収蔵資料の充実を考慮して、資料を計94点購入した。

2. 写真・映像等の提供

- ①鳥居龍蔵肖像写真データ 1点
株式会社スリーシーズン（出版物掲載）
- ②鳥居龍蔵肖像写真データ 1点
国立アイヌ民族博物館（出版物掲載）
- ③封筒及びスケッチ 2点
藏田愛子氏（出版物掲載）
- ④「カトリック美術協会」関係者集合写真 1点
鳴門市ドイツ館（出版物掲載）
- ⑤雑誌『声』（第667・669・670号） 3点
鳴門市ドイツ館（展示資料）
- ⑥「カトリック美術展」関係者集合写真 1点
鳴門市ドイツ館（パネル展示）
- ⑦拓本の画像データ 2点
劉 詩秋氏（博士学位請求論文掲載）

3. 資料閲覧

- ①佐藤醇吉スケッチ（鳥居龍蔵による西都原古墳群発掘調査記録） 35点
佐藤醇吉から鳥居龍蔵宛書簡 3点

佐藤醇吉スケッチ（鳥居龍蔵による延岡市内所在、南方古墳群調査記録） 22点

佐藤醇吉スケッチ（鳥居龍蔵による有史以前の遺物調査記録） 46点

東京大学大学院人文社会系研究科（藏田愛子氏）

- ②山東郵務区輿図 1点

カトリック美術展関係者の集合写真 1点

雑誌『声』667～670号 4点

鳴門市ドイツ館館（森 清治氏）

- ③扁額『万年永宝』 1点

四国大学大学院（太田 剛氏）

- ④延岡市内調査時の佐藤醇吉のスケッチ 63枚

延岡調査時の写真 220枚

「上代の日向延岡」の自筆原稿 1点

延岡市教育委員会文化財・市史編さん課（甲斐康大氏一行）

- ⑤千島アイヌ関係のメモ 5点

千島アイヌ竪穴住居のスケッチ 7点

千島アイヌの木皿の拓本 1点

根室市歴史と自然の資料館（猪熊樹人氏）

- ⑥『ホームライフ』第2巻第11号 1点

多田 昭氏

- ⑦鳥居龍蔵が、内モンゴル・中国東北部で撮影した

風俗や建造物関係の写真 70点

鳥居龍蔵・きみ子が使用したモンゴル語の練習

ノート 3点

鳥居きみ子が内モンゴルで採譜した歌謡の楽譜

3点

蒙文初等算術 1点

滋賀県立大学（ボルジギン・ブレンサイン氏）

4. 資料整理ボランティア

平成25年度から、歴史文化倶楽部（シルバー大学校及び同大学院の歴史文化講座修了者の会）の会員等からなるボランティアの協力を得て、館蔵資料の整理作業を進めている。

4年度も月2回程度のペースで活動を行い、必要に応じて有識者の助言を得ながらデータの蓄積を図った。活動実施日は次のとおりである。

第1回 4月19日（火）

- 第2回 5月11日(水)
- 第3回 5月25日(水)
- 第4回 6月10日(金)
- 第5回 6月24日(金)
- 第6回 7月15日(金)
- 第7回 9月7日(水)
- 第8回 9月27日(火)
- 第9回 10月12日(水)
- 第10回 10月25日(火)
- 第11回 11月11日(金)
- 第12回 11月22日(火)
- 第13回 12月14日(水)
- 第14回 1月13日(金)
- 第15回 2月8日(水)
- 第16回 3月24日(金)

策として、防虫剤及びトラップの設置による文化財害虫のモニタリングを行っている。4年度も防虫剤及びトラップの設置を行った。



ボランティア活動の様子

5. 資料の保存

(1) 資料の燻蒸

害虫やカビは、資料を劣化させる原因となる。そこで、企画展で展示した資料や資料整理を終えた資料などは、収蔵庫への搬入に先だって、原則としてすべて燻蒸を行う必要がある。なお、当該資料の燻蒸作業は、文化財専門の燻蒸業者に委託している。4年度は、燻蒸を1回行った。

(2) 収蔵庫における環境管理

収蔵庫への出入りなどにもなって、害虫やカビなどが侵入する恐れがあることから、定期的に清掃を実施し、虫菌害の防除に努めている。

(3) 常設展示室における環境管理

常設展示室は、収蔵庫のような密閉可能な空間ではないため、害虫の侵入を防ぐことができず、また、展示室全体の燻蒸が不可能である。そこで、害虫への対

IV 普及教育事業

鳥居龍蔵記念博物館における普及教育事業は、鳥居龍蔵の顕彰を推進するための県民に対する情報発信の意味をもち、重要である。また、調査研究や資料収集保存の成果を示すという意味でも、展示とともに意義深い事業といえる。

1. 普及行事

4年度は、鳥居龍蔵セミナーや企画展関連行事などを行い、普及啓発に努めた。

■鳥居龍蔵セミナー

職員や外部研究者による連続講座により、鳥居龍蔵の学説や調査活動などについて、広く理解してもらい、その顕彰に寄与しようとするものである。

- ・6月26日(日)
第1回「鳥居龍蔵、遼の文化を探る」
下田順一 33人
- ・7月31日(日)
第2回「鳥居龍蔵から妻きみ子への便り」
石井伸夫 32人
- ・8月28日(日)
第3回「鳥居龍蔵の南九州調査」
石尾和仁氏(徳島県立文書館) 32人
- ・10月2日(日)
第4回「鳥居龍蔵の中国西南部への視線」
長谷川賢二 30人
- ・11月23日(水)
第5回「朝鮮考古学のなかの鳥居龍蔵」
端野晋平氏(徳島大学埋蔵文化財調査室) 30人

- ・1月15日(日)
第6回「日本人類学のなかの鳥居龍蔵」
小林篤正 43人

■夏休み自由研究スペシャル

- 8月7日(日)
「みんなで発見!! 鳥居龍蔵を知ろう!!」 14人

■企画展関連行事

- ・企画展「鳥居龍蔵をめぐる人々―世界に広がる学知のネットワーク―」 展示解説
 - 第1回 2月5日(日) 20人
 - 第2回 2月11日(土・祝) 22人
 - 第3回 2月26日(日) 10人
 - 第4回 3月5日(日) 8人
- ・記念講演会
「鳥居龍蔵とその教え子達 ―日本考古学(縄文時代)研究とのかかわりのなかで―」
3月5日(日) 28人

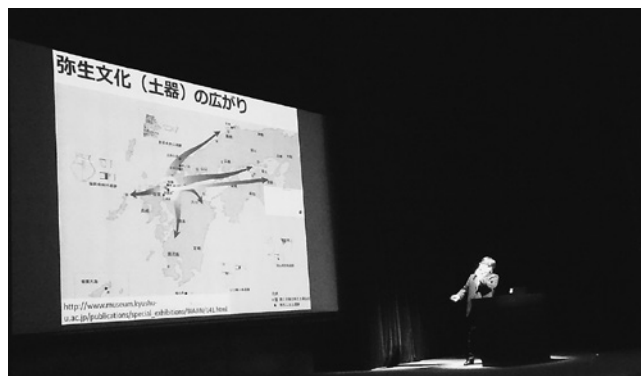
■鳥居龍蔵ゆかりの地を歩こう

- 3月19日(日)
JR 蔵本駅、徳島大学病院、産神社、椎宮神社、徳島市水道局佐古配水場、徳島市佐古小学校(以上、徳島市)
参加者 9人

■文化の森共同イベント

- ・5月5日(木・祝)
「文化の森 こどもの日フェスティバル」(いろいろな帽子をかぶってみよう!・文化の森ウォークラリー) 633人
- ・8月21日(日)
「文化の森 サマーフェスティバル」(絵合わせパズルにチャレンジ!) 248人
- ・11月3日(木・祝)
「文化の森 秋祭り」(ぬり絵で楽しもう) 910人
- ・2月11日(土・祝)
「文化の森 ウィンターフェスティバル」(絵合わせパズルで楽しもう・ウォークラリー)

1,312人



鳥居龍蔵セミナーの様子

2. 学校教育の支援

学校からの依頼に応じ、講師として学芸員を派遣した。

- ①新町小学校（徳島市） 10月14日（金）
1～6年生 93人
新町小学校の偉人について知ろう（講師：下田）
- ②徳島大学（徳島市） 12月14日（水）
大学生（留学生を含む）40人
鳥居龍蔵の研究スタイル（講師：石井）
- ③徳島大学（徳島市） 1月18日（水）
大学生（留学生を含む）40人
ワークショップ「鳥居龍蔵の台湾調査写真から考える」（講師：石井）



新町小学校における出前授業の様子

3. 講師の派遣

- ・9月6日（火）下田順一
徳島県シルバー大学校美馬校で講演「鳥居龍蔵とその時代」（美馬市地域交流センター）
- ・10月4日（火）小林篤正
徳島県シルバー大学校小松島校で講演「鳥居龍蔵とその時代」（小松島市総合福祉センター）
- ・10月8日（土）下田順一
令和4年度鳴門市公民館短期講座「歴史文化講座」で講演「鳥居龍蔵と徳島県内調査一鳴門での調査を中心に」(板東公民館)
- ・10月21日（金）下田順一
徳島県シルバー大学校徳島校で講演「鳥居龍蔵とその時代」（徳島県青少年センター）

4. テレビ・ラジオへの出演

事業のPRのためのテレビへの出演等を、月日・出演者・内容の順に記す。

- ・7月12日（火）石井伸夫 四国放送テレビ（ト

ピックコーナー「鳥居龍蔵の見た朝鮮半島の近代」について）

- ・11月15日（火）小林篤正 四国放送テレビ（トピックコーナー「鳥居龍蔵が見た120年前の沖縄」について）
- ・2月3日（金）下田順一 四国放送ラジオ（企画展「鳥居龍蔵をめぐる人々ー世界に広がる学知のネットワークー」について）
- ・2月17日（金）下田順一 ケーブルテレビ徳島、「ステップ」（企画展「鳥居龍蔵をめぐる人々ー世界に広がる学知のネットワークー」について）

5. 徳島新聞連載への協力

徳島新聞社では令和3年4月から、文化面において「日本人の起源を探る 鳥居龍蔵知の旅」の連載を随時掲載している（下記の丸番号は連載番号）。当館では、このコーナーの編集協力（テーマ及び執筆者の選定、校正）を行っている。4年度の執筆者、テーマ、掲載日は次のとおりである。なお、当館職員以外の執筆者には所属を付した。

- ①石井伸夫 「身体測定」 4月16日
- ②天羽利夫氏（鳥居龍蔵を語る会）
「妻きみ子の蒙古行」 5月24日
- ③岡本治代氏（鳥居龍蔵を語る会）
「近畿調査」 7月2日
- ④松永友和 「支援者・本山彦一」 8月3日
- ⑤石井伸夫 「ドルメン」 9月13日
- ⑥石尾和仁氏（徳島県立文書館）
「記紀神話」 10月20日
- ⑦長谷川賢二 「知られざる論文「苗族研究」」 11月18日
- ⑧湯浅利彦氏（鳥居龍蔵を語る会）
「城山貝塚発掘100年」 12月17日
- ⑨小林篤正 「沖縄の調査」 1月29日
- ⑩石井伸夫 「現地住民との意思疎通」 2月21日
- ⑪長谷川賢二 「学説の影響力」 3月28日

6. インターネットによる情報発信

(1) ホームページの公開

鳥居龍蔵記念博物館のホームページを開設し、事業の紹介や学習教材の提供などを行っている。主な内容は次のとおりである。

- ・利用案内（開館日、観覧料、交通アクセス等）
- ・学校教育での利用（観覧料の免除と手続き、出前授業）の案内

12 普及教育事業

- ・常設展の紹介
- ・「鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム」及び「鳥居龍蔵記念 全国高校生歴史文化フォーラム」の紹介
- ・台湾との交流
- ・鳥居龍蔵についての紹介
- ・研究報告や一部の図録類のダウンロードコーナー
- ・ご意見コーナー

(2) デジタルアーカイブ

当館を含む文化の森総合公園文化施設では、元年度から、「徳島県文化の森デジタルアーカイブ構築事業」を実施している。4年度は、当館では25点の資料を撮影した。これらのデジタルデータは、5年度に「徳島県立鳥居龍蔵記念博物館デジタルアーカイブ」において追加公開の予定である。

(3) 館蔵資料データベースの公開

2年度から開始した、館蔵資料データベースの公開を継続するとともに、データ整備作業を推進した。

7. 鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム

鳥居龍蔵は、徳島が生んだ世界的な学者である。鳥居は、人類学、民族学、考古学など多様な手法を駆使し、当時世界最先端の業績をあげたが、その礎は、地元の歴史や文化についてフィールドワークをもとに研究し、その成果を世に問いかけた少年時代の活動にあったといっても過言ではない。このような鳥居龍蔵の取り組みを記念し、徳島の中学生・高校生による歴史文化に関する自主的な研究活動を後押しすることにより、人材の育成を図ることを目的に、平成28年度から実施しており、令和4年度で7回目となった。

なお、この事業は26・27年度に行った博学連携推進モデル事業（年報5・6号参照）の成果を踏まえて行うこととしたものである。

●主催

徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
徳島県立博物館

●後援

徳島県博物館協議会

●募集内容及び条件

地域の歴史・文化について自主研究活動を行ってもらい、研究成果をまとめたレポートを募集した。テーマは、①特定の地域の歴史・文化に関すること(必

ずしも徳島県内に限定しない)、②鳥居龍蔵に関連することのいずれかとした。

また、研究及びレポート作成の条件として、①フィールドワーク（現地での見学や聞き取り、写真撮影等の調査）を行い、その結果をもとに考察すること、②テーマに関連する博物館や資料館を利用することとした。

●募集期間

7月19日（火）～11月18日（金）（レポートの提出をもって応募とする）

●対象（応募資格）

県内在住の中学校・高等学校及び特別支援学校（中学部、高等部）の生徒（中等教育学校の生徒及び高等専門学校3年生までの学生を含む）

※個人・グループなど、どのような形態でも参加可能

●募集結果

特定の地域の歴史・文化に関するテーマで、中学生の部4件、高校生の部3件の応募があり、すべてフォーラムでの口頭発表の対象とした。

●研究発表

- ①日 程 2月18日（土）10：00～16：30
中学生の部 10：00～12：00
高校生の部 13：00～16：30

②会 場 文化の森イベントホール

③参加者 46人

●審査・表彰

①審査委員

桑原 恵氏（徳島大学名誉教授）
須藤茂樹氏（四国大学教授）
中村 豊氏（徳島大学教授）

②審査結果

審査の結果は次のとおりであった。

〈中学生の部〉

優秀賞「徳島の横穴式石室と近畿地方の横穴式石室の比較」

鳴門教育大学附属中学校 中川 典

同 上「過去の記録から学ぶ

～南海トラフ巨大地震に備えて～」

海陽町立海陽中学校 三浦美紅

奨励賞「南海地震と敬湓碑

～先人が託した思いと私達の未来～」

鳴門教育大学附属中学校 市村美杜

同 上「私の先祖の謎に迫る！」

鳴門教育大学附属中学校 竹内美弥

〈高校生の部〉

優秀賞「小鳴門海峡の渡船」

徳島県立城ノ内中等教育学校

大開峻生、古瀬玄大

奨励賞「日本三祇園の1つと伝わる穴喰八坂神社の謎に迫る！～空白の70年間編～」

徳島県立海部高等学校 三浦美貴

同上「徳島城について」

徳島県立城北高等学校

山田拓夢、森 悠花、仁木一乃

●関連行事

①ガイダンス講座 7月17日（日）

「フィールドワークに挑戦！」

ガイダンス講座受講希望者を対象とし、現地を巡って基礎的な調査を体験してもらい、自主研究のスキル向上を目指した。

行先 大御和神社、観音寺周辺、徳島市立考古資料館、矢野の古墳（以上、徳島市）
国分尼寺（以上、名西郡石井町）

参加者 15人

②現地研修会 11月13日（日）

「文化遺産を巡る旅 in 姫路」

レポート提出予定者を対象として、地域の文化遺産を見学した。

行先 姫路城跡、姫路城下町跡（以上、姫路市）

参加者 10人



徳島歴史文化フォーラムにおける発表の様子



現地研修会の様子

8. 鳥居龍蔵記念 全国高校生歴史文化フォーラム

令和2年度、鳥居龍蔵記念博物館では、鳥居龍蔵生誕150周年を記念して、全国高校生歴史文化フォーラムを創設した。この事業の目的は、全国の高校生から歴史や文化に関する自主的な研究を募集し、優れた応募作品を表彰することで、その研究を行った者の活動を後押しし、未来を切り拓く人材の育成を図ることである。4年度で3回目の開催となった。

●主催

徳島県立鳥居龍蔵記念博物館

●募集内容及び条件

地域の歴史・文化について自主研究活動を行ってもらい、研究成果をまとめたレポートを募集した。テーマは、①特定の地域の歴史・文化に関すること、②鳥居龍蔵に関することのいずれかとした。

また、研究及びレポート作成の条件として、①フィールドワーク（現地での見学や聞き取り、写真撮影等の調査）を行い、その結果をもとに考察すること、②テーマに関する博物館や資料館を利用すること、③調査内容や結果からの考察を、文章、図表、地図、写真等を用いて表現することとした。

●募集期間

7月19日（火）～11月18日（金）

●対象（応募資格）

高等学校及び特別支援学校（高等部）の生徒（中等教育学校の後期課程在籍の生徒及び高等専門学校3年生までの学生を含む）

●審査委員

桑原 恵氏（徳島大学名誉教授）

須藤茂樹氏（四国大学教授）

中村 豊氏（徳島大学教授）

●審査

①1次審査（書類選考）を行い、優秀な研究を表彰した。

②1次審査の結果、上位の4組（1組辞退）については、フォーラム（研究発表会）に参加し、徳島フォーラムの上位者ととともに口頭報告を行ってもらい、最優秀者を選考し、表彰した。

●1次審査（書類審査）の結果

【優秀賞】

・「『月岡野の戦い』の検証と創作活動への応用に関する試論」

岐阜県立関高等学校 地域研究部・文芸部

（田中莉子、藤村彩須果、杉浦良太朗、鈴木遥斗、梅村颯太郎、酒向達也、大竹 諒、平山華音、

14 普及教育事業

亀山湧也、杉浦ひのか)

- ・「岐阜県山間部に残るトチノミ食」
岐阜県立関高等学校 地域研究部
(杉浦良太郎、鈴木遥斗、梅村颯太郎、酒向達也、猿渡太智、杉浦ひのか)
- ・「日記から解き明かす関東大震災と地域の人びと」
神奈川県立足柄高等学校 歴史研究部
(藤井彩夏、森山元陽)
- ・「青谷上寺地遺跡出土人骨の考察—殺傷痕のある少女人骨の問いかけるもの—」
鳥取県立青谷高等学校 青谷学Ⅱ(文学歴史コース)
(山根明日美、中瀬佳奈実、前 柚妃、小椋菜々穂、狩野美久、須山美優)

【入 賞】

- ・「第二次世界大戦前後の西条祭りについて—コロナ禍から考える—」
愛媛県立西条高等学校 地域・歴史研究部
(渡部弘大、吉田陽人、請川あかね、栗田晴一郎)
- ・「伊予の国小野谷に残る小野小町伝承の謎を解く 2」
愛媛県立松山北高等学校 郷土研究部
(峰岡菜菜、大森真歩、岡部美紀)
- ・「白川義親の下剋上・天正の変の事実に向ける～義親と周辺人物の動向から～」
学校法人石川高等学校 考古学部 (田中友陽)
- ・「「神宿る島」壱岐の信仰について～歴史的変遷と特異性～」
長崎県立壱岐高等学校 東アジア歴史・中国語コース2年歴史学専攻 (加藤紅葉、服部龍馬、山本拓真)
- ・「栃木県北部の養蚕に関する一考察」
栃木県立矢板東高等学校 リベラルアーツ同好会
(今井勇喜、植木猛至、大串絵莉香、押目麻紘、伴瀬拓己、松岡明希)
- ・「下野国の薬種事情」
栃木県立石橋高等学校 歴史研究部
(大野一樹、大根田咲弥、野口朋香、早瀬壮真、有野智哉)

【佳 作】

- ・「本校卒業生、登山家加藤保男とその時代 ヒマラヤへの挑戦が国家の力を示すと考えられた時代」
大東文化大学第一高等学校 地理歴史研究部
(遠藤 輔、新海日菜子、菅原千尋、井上睦斗、寄本大雅、若月和輝、木下将斗)
- ・「静岡県における修身科教育」
静岡県立韮山高等学校 小関乃の華、渡辺和佳
- ・「北条義時～執権になってからの功績について～」
静岡県立韮山高等学校 稲葉 悠、上野心優

- ・「三津の渡し船～今も残り続ける理由とは～」
愛媛県立松山西中等教育学校
大隅さくら、川染 遼奈
- ・「新納忠元と大口～忠元はなぜ今でも慕われているのか～」
鹿児島県立大口高等学校 田淵樹里

●フォーラム (発表会)

- ①日 程 2月19日(日) 13:00～16:00
 - ②会 場 文化の森イベントホール
 - ③参加者 34人
 - ④題目・発表者(発表順)及び審査結果
- ・「「月岡野の戦い」の検証と創作活動への応用に関する試論」
岐阜県立関高等学校 地域研究部・文芸部
(田中莉子、藤村彩須果、杉浦良太郎、鈴木遥斗、梅村颯太郎、酒向達也、大竹 諒、平山華音、亀山湧也、杉浦ひのか)
 - ・「日記から解き明かす関東大震災と地域の人びと」
神奈川県立足柄高等学校 歴史研究部
(藤井彩夏、森山元陽)
 - ・「青谷上寺地遺跡出土人骨の考察—殺傷痕のある少女人骨の問いかけるもの—」
鳥取県立青谷高等学校 青谷学Ⅱ(文学歴史コース)
(山根明日美、中瀬佳奈実、前 柚妃、小椋菜々穂、狩野美久、須山美優)
 - ・「小鳴門海峡の渡船」
徳島県立城ノ内中等教育学校
大開峻生、古瀬玄大

【最優秀賞】

- ・「日記から解き明かす関東大震災と地域の人びと」
神奈川県立足柄高等学校 歴史研究部
(藤井彩夏、森山元陽)
- ・「小鳴門海峡の渡船」
徳島県立城ノ内中等教育学校
大開峻生、古瀬玄大



全国高校生歴史文化フォーラム開会式の様子

9. 普及教育関係出版物

●令和3年度 鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム報告書

2022年5月31日発行、A4判、16ページ、1,000部



「鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム報告書」の表紙

●鳥居龍蔵記念博物館 NEWS LETTER No. 2

2022年9月20日発行、A4判、8ページ、3,000部
長谷川賢二「第1回台湾調査フィールドノート」(今季の逸品)、p. 1.

石井伸夫「上京、海外調査、そして結婚」(資料でたどる、鳥居龍蔵の学問と生涯、第2章)、p. 2-3.

下田順一「三谷遺跡」(ゆかりの地今昔2)、p. 4.

松永友和「鳥居龍蔵の近畿調査—一本山彦—書簡より—」(資料整理の最前線)、p. 5.

小林篤正「段の塚穴古墳群」(鳥居龍蔵に学ぶ「地域学」)、p. 6.

大橋俊雄「須木一胤」(龍蔵を巡る人々—碩学と社会のインターフェイス—)、p. 7.

石尾和仁(元鳥居龍蔵記念博物館専門学芸員)「鳥居龍蔵と安藤正楽」(鳥居龍蔵研究に思う)、p. 8.

●鳥居龍蔵記念博物館 NEWS LETTER No. 3

2023年3月20日発行、A4判、8ページ、3,000部
松永友和「鳥居龍蔵あて坪井正五郎の絵葉書」(今季の逸品)、p. 1.

石井伸夫「青年研究者・鳥居龍蔵の挑戦—台湾から沖縄、そして千島へ」(資料でたどる、鳥居龍蔵の学問と生涯、第3章)、p. 2-3.

下田順一「美田遺跡」(ゆかりの地今昔)、p. 4.

長谷川賢二「東京帝国大学の辞令」(資料整理の最前線)、p. 5.

大橋俊雄「森 敬介」(龍蔵を巡る人々—碩学と社会のインターフェイス—)、p. 6.

大原賢二(元鳥居龍蔵記念博物館長)

「鳥居龍蔵の鹿兒島調査」(鳥居龍蔵研究に思う)、p. 7.



NEWS LETTERの表紙(上: No. 2./下: No. 3.)

V 台湾との交流

鳥居龍蔵記念博物館は、令和2年度に宮岡真央子氏（福岡大学）の仲介により、国立台湾史前文化博物館との交流を開始した。3年度はオンライン形式の会議などで、連携協定の締結に向けた調整を行った。4年度は台湾との交流が大きく前進した。主な活動は以下のとおりである。

1. 国立台湾史前文化博物館との連携協定の締結

9月13日、当館は国立台湾史前文化博物館との間に、連携協定を締結した（締結式はオンライン開催）。協定期間は5年間で、内容は、当事者間の交流と学術調査を目的とした訪問、研究の発展と成果の公表、展示会の開催と教育普及の推進などである。



連携協定締結式の様子

2. 文化庁 Innovate MUSEUM 事業

令和4年度文化芸術振興費補助金（文化庁 Innovate MUSEUM 事業）の申請にあたり、当館が中核館となり、「鳥居龍蔵がつなぐ台湾と徳島の文化交流事業実行委員会」を組織した。事業の採択を受け、9月1日から3月30日の期間に、「移動展示」と「国際シンポジウム」を実施した。詳細は下記のとおりである。

(1) 実施体制

●実行委員会の構成

役職名	氏名	所属
会長	長谷川賢二	徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
副会長	天羽 利夫	鳥居龍蔵を語る会
実行委員	GEHRTZ 三隅友子	徳島大学
	須藤 茂樹	四国大学
	向井 公紀	阿南市
	西川 栄展	那賀町立鷺敷小学校
	梶浦 真子	美馬市立図書館
監事	磯本 宏紀	徳島県立博物館
事務局長	岡島 敏子	徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
事務局員	大橋 俊雄	徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
	下田 順一	徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
	松永 友和	徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
	石井 伸夫	徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
	後藤 優樹	徳島県立二十一世紀館
	小林 篤正	徳島県立鳥居龍蔵記念博物館

●会議の実施

①第1回会議

実施日 9月22日（木）
会 場 徳島県立近代美術館 講座室
内 容 事業の進め方に関する協議

②第2回会議

実施日 3月17日（金）
会 場 徳島県立博物館 講座室
内 容 事業の総括

(2) 移動展示「学知のユリカゴ 台湾 一青年 鳥居龍蔵の挑戦」

県内6会場において移動展示を実施した。鳥居が遺した台湾関係資料の内、写真資料やフィールドノートを中心に紹介した。

①移動展1「学知ユリカゴ 台湾 一青年 鳥居龍蔵の挑戦」阿南展

主 催 鳥居龍蔵がつなぐ台湾と徳島の文化交流事業実行委員会
共 催 阿南市立阿波公方・民俗資料館
会 期 10月18日（火）～10月30日（日）
（開催日数12日）
会 場 阿南市立阿波公方・民俗資料館

観覧者数 51人
 関連行事 展示解説
 日 時 10月30日(日)
 10:30～11:00
 会 場 阿南市立阿波公方・民俗館 ロビー
 講 師 石井伸夫
 参加者 5人

②移動展2「学知のユリカゴ 台湾 一青年 鳥居龍蔵の挑戦―」美馬展

主 催 鳥居龍蔵がつなぐ台湾と徳島の文化交流事業実行委員会
 共 催 美馬市教育委員会、美馬市立図書館
 会 期 11月30日(水)～12月19日(月)
 (開催日数17日)
 会 場 美馬市立図書館
 観覧者数 1,287人
 関連行事 ①講演会
 日 時 12月18日(日)
 13:30～14:30
 会 場 美馬市立図書館
 講 師 石井伸夫
 参加者 32人
 ②展示解説
 日 時 12月18日(日)
 14:40～15:00
 会 場 美馬市立図書館
 講 師 小林篤正
 参加者 32人

③移動展3「学知のユリカゴ 台湾 一青年 鳥居龍蔵の挑戦―」徳島展

主 催 鳥居龍蔵がつなぐ台湾と徳島の文化交流事業実行委員会
 共 催 四国大学
 会 期 12月3日(土)～12月25日(日)
 (開催日数20日)
 会 場 四国大学 交流プラザ
 観覧者数 947人
 関連行事 ①講演会
 日 時 12月24日(土)
 13:30～15:00
 会 場 四国大学交流プラザ
 講 師 石井伸夫
 参加者 32人
 ②展示解説

日 時 12月24日(土)
 15:10～15:30
 会 場 四国大学交流プラザ
 講 師 小林篤正
 参加者 32人

④パネル展1「鳥居龍蔵と新町小学校」

主 催 鳥居龍蔵がつなぐ台湾と徳島の文化交流事業実行委員会
 共 催 徳島市新町小学校
 会 期 10月4日(火)～10月14日(金)
 (開催日数8日)
 会 場 徳島市新町小学校
 観覧者数 109人
 関連行事 ①展示解説
 日 時 10月9日(日)
 8:30～11:00
 会 場 徳島市新町小学校
 講 師 下田順一
 参加者 16人
 ②出前授業
 日 時 10月14日(金)
 8:40～10:20
 会 場 徳島市新町小学校
 講 師 下田順一
 「新町小学校の偉人について知ろう」
 対 象 1～6年生(93人)

⑤パネル展2「学知のユリカゴ 台湾 一青年 鳥居龍蔵の挑戦―」徳島大学展

主 催 鳥居龍蔵がつなぐ台湾と徳島の文化交流事業実行委員会
 会 期 1月11日(水)～2月2日(木)
 (開催日数17日)
 会 場 徳島大学 常三島キャンパス
 観覧者数 680人
 関連事業 ①出前授業
 日 時 12月14日(水)
 10:30～12:00
 会 場 徳島大学常三島キャンパス
 講 師 石井伸夫
 「鳥居龍蔵の研究スタイル」
 対 象 大学生(留学生を含む)(40人)
 ②ワークショップ
 日 時 1月18日(水)
 10:30～12:00

18 台湾との交流

会 場 徳島大学常三島キャンパス
 講 師 石井伸夫
 「鳥居龍蔵の台湾調査写真から
 考える」
 対 象 大学生（留学生を含む）（40人）

⑥パネル展3「学知のユリカゴ 台湾 一青年 鳥居
 龍蔵の挑戦―」文化の森展

主 催 鳥居龍蔵がつなぐ台湾と徳島の文化交流事
 業実行委員会

会 期 1月11日（水）～3月16日（木）
 （開催日数56日）

会 場 文化の森4館棟 2階エントランス
 観覧者数 5,243人



移動展のポスター



移動展（阿南展）における展示解説



移動展（美馬展）における展示解説



移動展（徳島展）における展示解説



パネル展（新町小学校）の展示風景



パネル展（徳島大学展）の展示風景



パネル展（文化の森展）の展示風景

(3) 国際シンポジウム「鳥居龍蔵と台湾—資料の可能性を探る—」

台湾における鳥居龍蔵の足跡をたどりつつ、彼が残した資料の価値について、日本と台湾の双方から学術的な検討を加えた。

- 主催 鳥居龍蔵がつなぐ台湾と徳島の文化交流事業実行委員会
- 日時 3月12日（日）
12：20～17：00
- 会場 文化の森 多目的活動室
- プログラム

- 12：20 「開会あいさつ」 長谷川賢二
- 12：30 「鳥居龍蔵による台湾調査関連資料の概要について」 石井伸夫
- 12：50 「鳥居龍蔵と台湾 ～同志たちとの協働を中心に～」 宮岡真央子氏（福岡大学）
- 13：30 「與鳥居龍蔵共行—臺灣原住民族的發展及國立臺灣史前文化博物館の角色」 林 慧仙氏（国立台湾史前文化博物館）
通訳 山西弘朗氏（香川大学）
- 14：40 「容顔之外：鳥居龍蔵排灣族照片中的環境、物種與當代風貌變遷初探」 張 至善氏（国立台湾史前文化博物館）

通訳 永本智富氏（徳島文理大学）

15：40 「日本の初期人類学と鳥居龍蔵 ～起源探究の方法論への関心～」

野林厚志氏（国立民族学博物館）

16：20 パネルディスカッション 資料の可能性を探る

【パネリスト】

宮岡真央子氏、陳 俊男氏（国立台湾史前文化博物館）、張 至善氏、野林厚志氏、長谷川賢二

【コーディネーター】

石井伸夫

●参加者 83人



国際シンポジウムのポスター



林 慧仙氏による講演の様子



張 至善氏による講演の様子



関西大学博物館で行った資料調査の様子



パネルディスカッションの様子



当館で行った資料調査の様子



天理大学附属天理参考館における展示視察

(4) 博物館視察と資料調査

当館を含む4つの機関で、常設展や企画展の視察、資料の調査を行った。

- ①徳島県立鳥居龍蔵記念博物館（3月11日）
- ②天理大学附属天理参考館（3月13日）
- ③国立民族学博物館（3月14日）
- ④関西大学博物館（3月14日）

(5) 関係出版物

- 普及啓発パンフレット「鳥居龍蔵が記録した台湾」
2023年3月12日発行、A4判・8ページ、5,000部
- 国際シンポジウム「鳥居龍蔵と台湾 資料の可能性を探る」講演要旨集
編集 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
発行 鳥居龍蔵がつなぐ台湾と徳島の文化交流事業実行委員会
発行年月日 2023年3月12日
判型・ページ数 A4判・82ページ
発行部数 500部
- 鳥居龍蔵がつなぐ台湾と徳島の文化交流事業事業報告書
編集 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
発行 鳥居龍蔵がつなぐ台湾と徳島の文化交流事業実行委員会
発行年月日 2023年3月24日
判型・ページ数 A4判・44ページ
発行部数 400部



普及啓発パンフレットの表紙



事業報告書の表紙



講演要旨集の表紙

3. 台湾への訪問

国立台湾史前文化博物館からの招待を受けて、2月7日（火）から12日（日）にかけて、台湾を訪問した。参加者と訪問の日程は次のとおりである。

●参加者

長谷川賢二、松永友和、石井伸夫、小林篤正

●日程

2月7日（火） 台湾へ移動。

2月8日（水）

台北市から台東市へ移動して、国立台湾史前文化博物館・康楽本館を訪問し、展示の部を視察した。午後から石井伸夫が講演を行った後、収蔵庫を視察した。

2月9日（木）

台東市から屏東県獅子郷へ移動して、草山旧社などを訪問し、現地調査を行った。

2月10日（金）

屏東県獅子郷から同県春日郷へ移動して、力里旧社を訪問し、現地調査を行った。

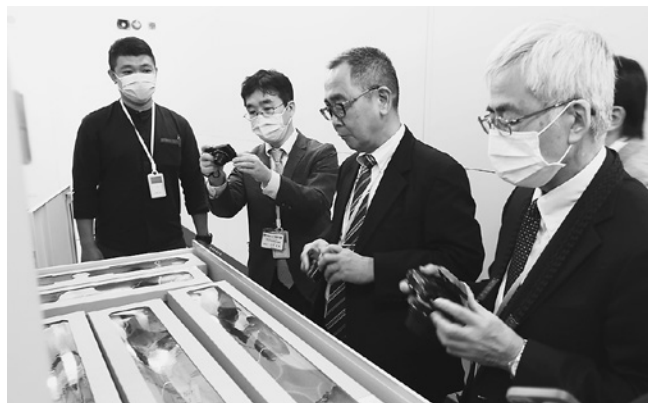
2月11日（土）

屏東県春日郷から台南市へ移動して、国立台湾史前文化博物館・南科考古館を訪問し、常設展、特別展、

22 台湾との交流

収蔵庫を視察した。

2月12日（日） 台湾から帰国。



国立台湾史前文化博物館・康楽本館収蔵庫の視察



力里旧社で行った現地調査の様子



草山旧社で行った現地調査の様子



国立台湾史前文化博物館・南科考古館収蔵庫の視察

VI 管理運営

1. 組織・職員

(1) 組織図（令和5年6月1日現在）

館長 [1] — 副館長 [1] — 企画・学芸担当6 [5]
 (事務職員 [2])
 学芸員4 [3]、
 会計年度任用職員2)
 [] は兼務者数 (外数)

(2) 職員名簿（令和5年6月1日現在）

館長	長谷川賢二	(県立博物館長本務)
副館長	東條 正幸	(県立博物館副館長本務)
〈企画・学芸担当〉		
課長	大橋 俊雄	(県立博物館課長(人文担当)本務)
課長補佐	植地 岳彦	(県立博物館課長補佐本務)
係長	丸山 直生	(県立博物館係長本務)
係長	鉄谷 雅史	(県立博物館係長本務)
学芸係長	松永 友和	(県立博物館学芸係長本務)
主席	石井 伸夫	
主席	下田 順一	
主任学芸員	小林 篤正	
学芸員	坂東 泰	
会計年度任用職員	松家あき子	
会計年度任用職員	田原 晶子	

(3) 人事異動

〈令和5年3月31日付〉

定年退職：下田 順一・学芸係長

〈令和5年4月1日付〉

転出（兼務解除）：森 篤之・課長補佐、福井中学校教頭へ

転入（兼務）：鉄谷 雅史・係長（宍喰中学校教諭）

新規採用：坂東 泰・学芸員

再任用：下田 順一・主席

〈令和5年6月1日付〉

転出（兼務解除）：岡島 敏子・副館長、文化の森振興センター副所長

転入（兼務）：東條 正幸・副館長（徳島視覚支援学校事務課長）

植地 岳彦・課長補佐（県立博物館

課長補佐)

(4) 令和4年度会計年度任用職員

松浦まり子（令和4.4.1～令和5.3.31）

宮田正友美（令和4.4.1～令和5.3.31）

2. 防災及び危機管理

(1) 防災及び危機管理体制

危機管理全般については、文化の森振興センターを中心に、文化の森全館の館長・副館長が協議しながら、対応する体制を整えている。また、防災について、文化の森4館棟で消防防災計画を立て、二十一世紀館、博物館、近代美術館、当館と文化の森の警備、設備、食堂等の業者で自衛消防隊を組織し、非常時に供えている。

(2) 新型コロナウイルス感染症拡大防止への対応

令和4年度も新型コロナウイルス感染症が収束せず、感染拡大防止に配慮した利用者サービスの実施を継続した。具体的には、(公財)日本博物館協会が作成したガイドライン等を踏まえて、展示観覧や行事参加においてはアルコールによる手指消毒や検温、マスク着用などの協力を要請したほか、所要箇所にアクリル製パーティションや除菌装置を設置した。また、展示や各種の行事については、密集による感染リスクに留意し、換気の徹底にも努めた。一方、職員もマスク着用や手指消毒などを徹底した。

(3) 防災訓練

二十一世紀館を中心に、3月23日(木)に防火防災訓練を行ったほか、県組織として随時行われる各種訓練にも参加して、防災意識を高めた。

3. 鳥居龍蔵記念博物館協議会

鳥居龍蔵記念博物館協議会は、運営に関し館長の諮問に応じるとともに、館長に対して意見を述べる機関で、博物館法及び徳島県文化の森総合公園文化施設条例の規定にもとづき設置されている。委員は、県立博物館協議会委員による兼務である。

令和4年度は、県立博物館協議会を兼ねて1回開催した。

●令和4年度鳥居龍蔵記念博物館協議会

日時：10月6日（木）

13：30～15：30

会場：徳島県立博物館 講座室

議事

- (1)令和3年度事業の実施状況について
- (2)令和4年度予算及び事業概要について

令和4年度鳥居龍蔵記念博物館協議会委員

(令和5年3月31日現在)

区分	氏名	役職等
学校教育	生駒 佳也	徳島県立阿南光高等学校教諭
社会教育	○安倍 久恵	フリーアナウンサー・佐古絆文化協会事務局
	原 多賀子	京都外国語大学非常勤講師
	西 記代子	四国大学文学部講師
学識経験	塩瀬 隆之	京都大学総合博物館准教授
	坂本 優子	日本航空(株)西日本支社地域事業グループ グループ長
	瀬戸 恵深	(株)エフエムびざん放送部ディレクター
	◎町田 哲	鳴門教育大学大学院学校教育研究科准教授
	松村 幸江	阿波市国際交流の会会長
家庭教育	森脇佳代子	阿南市立羽ノ浦小学校 PTA

◎会長、○副会長

4. 視察等来訪者

- 8月24日～25日 福岡大学人文学部
宮岡真央子氏ほか 一行3人
- 8月30日～31日 東京大学大学院人文社会系研究科
藏田愛子氏
- 10月9日 駐神戸大韓民国総領事 梁 超豪氏

- 2月9日 根室市歴史と自然の資料館 猪熊樹人氏
- 3月2日～3日 延岡市教育委員会文化財・市史編さん課 甲斐康大氏ほか 一行3人
- 3月11日 国立台湾史前文化博物館
田 詩函氏ほか 一行6人
- 3月23日 滋賀県立大学 ボルジギン・ブレンサイン氏
- 3月29日 九州大学韓国研究センター 永島広紀氏

VII 観覧者統計

●令和4年度 常設展観覧者数

月	開館日数	有 料 観 覧 者						無 料 観 覧 者													観覧者 総数					
		個 人		団 体 (割引20%)		有料 観覧者 計	学 校 教 育					個 人					無料 観覧者 計									
		一般	高校・小・中 大学生	一般	高校・小・中 大学生		幼稚園・保育園 園数	小学校 校数	中学校 校数	高校 校数	計 校数	小学生	中学生	高校生	障がい者	高齢者		その他								
4月	26	11	8	0	37	5	0	61	0	0	0	0	0	0	0	27	3	3	8	67	97	205	266			
5月	26	24	11	1	17	3	0	56	0	0	3	142	0	0	0	155	11	19	17	98	640	1,082	1,138			
6月	26	22	9	0	28	2	0	61	0	0	0	0	0	0	18	5	9	13	42	75	162	223				
7月	27	26	16	0	34	7	0	83	0	0	0	1	20	0	1	59	5	5	19	79	136	323	406			
8月	27	44	11	0	40	3	0	98	0	0	1	13	0	0	1	108	12	7	20	55	151	366	464			
9月	25	26	10	0	25	1	0	62	1	55	0	0	0	0	1	55	5	1	20	78	137	354	416			
10月	26	8	9	0	30	5	0	52	1	51	2	251	0	0	0	3	202	40	4	3	21	58	99	527	579	
11月	26	5	4	0	8	0	0	17	0	0	3	242	1	46	0	4	288	276	20	8	16	155	972	1,735	1,752	
12月	24	22	6	0	35	2	0	65	0	0	0	0	0	0	0	22	1	0	17	35	57	132	197			
1月	23	18	8	0	21	2	0	49	0	0	0	0	0	0	0	45	1	5	13	77	146	287	336			
2月	24	9	7	0	38	0	0	54	0	0	0	0	0	0	0	354	14	4	16	111	1,065	1,564	1,618			
3月	27	30	12	0	17	1	0	60	0	0	0	0	0	1	5	1	5	36	7	0	15	48	125	236	296	
計	307	245	111	1	330	31	0	718	2	106	9	648	2	66	1	5	14	825	1,198	88	64	195	903	3,700	6,973	7,691

●常設展観覧者数累計

年度	開館日数	有 料 観 覧 者						無 料 観 覧 者													観覧者 総数										
		個 人		団 体 (割引20%)		有料 観覧者 計	学 校 教 育					個 人					無料 観覧者 計														
		一般	高校・小・中 大学生	一般	高校・小・中 大学生		大人	幼稚園・保育園 園数	小学校 校数	中学校 校数	高校 校数	計 校数	小学生	中学生	高校生	障がい者		高齢者	その他												
平22	121	909	33	6	66	0	0	790	49	839	0	0	1,853	9	540	15	851	2	12	1	15	27	1,418	1,259	60	37	—	—	3,432	6,206	8,059
平23	309	895	77	13	71	44	0	556	84	640	0	0	1,740	1	90	32	2,179	7	641	3	332	43	3,242	2,950	270	214	—	—	8,510	15,184	16,924
平24	308	621	106	4	65	0	0	120	22	142	0	0	938	2	182	33	2,450	2	9	2	341	39	2,982	3,089	225	135	129	829	7,256	14,645	15,583
平25	307	506	176	4	48	48	0	—	—	—	—	—	782	10	538	36	2,197	1	3	1	142	48	2,880	2,886	294	158	203	1,071	6,382	13,874	14,656
平26	307	436	150	9	110	18	0	—	—	—	—	—	723	8	381	32	1,755	5	97	3	335	48	2,568	2,770	200	76	320	1,575	6,080	13,589	14,312
平27	308	409	105	1	266	50	5	—	—	—	—	—	836	3	250	14	644	0	1	37	18	931	3,334	323	168	398	2,111	7,964	15,229	16,065	
平28	308	389	83	1	202	13	2	—	—	—	—	—	690	4	180	7	120	2	81	1	25	14	406	4,310	325	198	415	1,897	9,698	17,249	17,939
平29	308	338	70	1	191	21	0	—	—	—	—	—	621	5	164	5	343	1	59	3	264	14	830	3,143	267	188	238	1,697	7,203	13,566	14,187
平30	308	276	71	2	147	43	1	—	—	—	—	—	540	6	119	11	373	1	113	1	12	19	617	2,445	206	184	229	1,662	7,035	12,378	12,918
合1	307	260	51	0	130	30	4	—	—	—	—	—	475	2	56	23	697	0	0	1	32	26	785	3,020	208	160	141	1,728	8,298	14,347	14,822
合2	292	395	70	22	237	11	144	—	—	—	—	—	879	2	106	13	869	1	36	0	0	17	1,011	1,073	75	49	175	1,054	2,459	5,896	6,775
合3	300	340	105	0	255	47	0	—	—	—	—	—	747	1	72	18	1,226	0	0	1	5	20	1,303	704	82	56	119	866	2,019	5,149	5,896
合4	307	245	111	1	330	31	0	—	—	—	—	—	718	2	106	9	648	2	66	1	5	14	825	1,198	88	64	195	903	3,700	6,973	7,691
計	3,790	6,019	1,208	64	2,118	356	156	1,466	155	1,621	0	0	11,542	55	2,784	248	14,352	24	1,117	19	1,545	347	19,798	32,181	2,623	1,687	2,562	15,393	80,036	154,285	165,827

(※) 平成24年9月から、高齢者(65歳以上)及び障がい者は無料。

●令和4年度 企画展観覧者数

企画展名	開催期間	開催日数	有 料 観 覧 者						無 料 観 覧 者													観覧者 総数								
			個 人		団 体 (割引20%)		有料 観覧者 計	学 校 教 育					個 人					無料 観覧者 計												
			一般	高校・小・中 大学生	一般	高校・小・中 大学生		大人	幼稚園・保育園 園数	小学校 校数	中学校 校数	高校 校数	計 校数	小学生	中学生	高校生	障がい者		その他											
企画展 「鳥居龍蔵をめぐる人々」展	令5.2.4～3.12	32	83	5	0	31	25	0	85	229	2	66	2	237	0	0	0	0	0	0	4	303	185	18	8	8	23	481	1,018	1,247

●企画展観覧者数累計

企画展名	開催期間	開催日数	有 料 観 覧 者						無 料 観 覧 者					観覧者 総数			
			個 人		団 体 (割引20%)		有料 観覧者 計	無 料 観 覧 者									
			一般	高校・小・中 大学生	一般	高校・小・中 大学生		減免(割引50%) 一般	障がい者	個人	個人	個人	無料 観覧者 計				
鳥居龍蔵の見た台湾	平24.1.28～3.11	38	549	21	1	14	1	0	559	34	1,179	20	1,037	363	1,420	2,599	
鳥居龍蔵の国内調査 —沖繩・南九州—	平26.1.25～3.2	32	270	22	0	11	0	0	139	—	442	9	595	707	1,311	1,753	
よみがえる縄文世界 —鳥居龍蔵の信州調査—	平27.1.24～3.1	32	377	40	7	78	0	0	285	—	787	39	805	1,196	2,040	2,827	
鳥居龍蔵 —世界に広がる知の遺産—	平28.1.23～2.28	32	179	19	0	94	2	0	266	—	560	61	309	901	1,271	1,831	
遙かなるマチュピチュ —鳥居龍蔵、南アメリカを行く—	平29.1.28～3.5	32	536	29	2	194	4	1	592	—	1,358	30	494	1,023	1,547	2,905	
鳥居龍蔵、日本人の起源に迫る —本山彦一の交流—	平30.1.10～3.18	32	144	10	0	49	0	0	167	—	370	25	283	1,068	1,376	1,746	
鳥居龍蔵と小金井良精 —日本人の起源を求めて—	平31.1.26～3.3	32	122	5	0	43	2	0	139	—	311	16	484	1,024	1,524	1,835	
文化財調査の先覚者 鳥居龍蔵、徳島を探る	令2.2.8～3.15	32	120	9	1	49	0	0	165	—	344	90	312	735	1,137	1,481	
鳥居龍蔵の学問と世界	令3.2.13～3.21	32	60	2	2	43	0	0	111	—	218	5	43	280	328	546	
鳥居龍蔵と草原の遊牧王朝 遼	令4.2.5～3.13	32	106	20	0	36	2	0	141	—	305	8	184	286	478	783	
鳥居龍蔵をめぐる人々	令5.2.4～3.12	32	83	5	0	31	25	0	85	—	229	8	203	807	1,018	1,247	
合 計			358	2,546	182	13	642	36	1	2,649	34	6,103	311	4,749	8,390	13,450	19,553

(※) 平成24年9月から、障がい者は無料。

26 観覧者統計

●特別陳列観覧者数累計

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
鳥居龍蔵の見た北東アジア	平23.10.29～12.4	32	4,534
鳥居龍蔵とアイヌ	平25.1.26～3.3	32	5,465
合計		64	9,999

●人権啓発展観覧者数

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者数
2010年度人権問題啓発展	平22.11.30～12.5	6	670
2011年度人権問題啓発展	平23.12.6～12.11	6	383
2012年度人権問題啓発展	平24.12.4～12.9	6	356
2013年度人権問題啓発展	平25.12.4～12.10	6	341
2014年度人権問題啓発展	平26.12.10～12.16	6	315
2015年度人権問題啓発展	平27.12.9～12.15	6	270
2016年度人権問題啓発展	平28.12.9～12.15	6	244
2017年度人権問題啓発展	平29.12.6～12.12	6	227
2018年度人権問題啓発展	平30.12.5～12.11	6	382
2019年度人権問題啓発展	令1.12.4～12.10	6	278
2020年度人権問題啓発展	令2.12.9～12.15	6	447
2021年度人権問題啓発展	令3.12.8～12.14	6	419
2022年度人権問題啓発展	令4.12.7～12.13	6	262
合計		78	4,594

●啓発展を除く共催事業観覧者・参加者数

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者数
鳥居龍蔵が見た「祭り」「踊り」	平23.7.20～23.8.28	36	4,038
合計		36	4,038

(※) 観覧者数は開催期間中の常設展来館者数合計。

●館内各種展示観覧者数

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者数
鳥居龍蔵の南アメリカ調査と乗り物	平29.2.4～29.4.23	68	11,031
鳥居龍蔵生誕150周年「鳥居龍蔵とは!?」	令2.7.21～2.11.29	114	8,230
鳥居龍蔵が撮影した台湾一人々と風景一	令3.9.14～4.2.6	120	12,715
鳥居龍蔵の見た遠代の仏塔	令4.8.2～4.11.13	90	10,041
鳥居龍蔵の見た120年前の木頭—文化の森展	令4.11.15～5.1.9	43	3,042
学知のユリカゴ 台湾—青年 鳥居龍蔵の挑戦—(文化の森展)	令5.1.11～5.3.16	56	5,243
合計		491	50,302

●館外各種展示観覧者数

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者数
移動展 鳥居龍蔵が見た120年前の木頭(那賀町木頭文化会館)	令4.8.6～4.9.9	37	262
学知のユリカゴ 台湾—青年 鳥居龍蔵の挑戦—(新町小学校展)	令4.10.4～4.10.13	10	109
学知のユリカゴ 台湾—青年 鳥居龍蔵の挑戦—(阿南市立阿波公方・民俗資料館展)	令4.10.18～4.10.30	12	51
学知のユリカゴ 台湾—青年 鳥居龍蔵の挑戦—(美馬市立図書館展)	令4.11.30～4.12.19	16	1,287
学知のユリカゴ 台湾—青年 鳥居龍蔵の挑戦—(四国大学展)	令4.12.3～4.12.25	20	947
学知のユリカゴ 台湾—青年 鳥居龍蔵の挑戦—(徳島大学展)	令5.1.11～5.2.2	17	680
合計		112	3,336

●利用者総数年度別一覧

年度	常設展		常設展観覧者 合計	企画展 観覧者	特別陳列 観覧者	移動展等	普及行事 参加者	その他	利用者総数
	有料観覧者	無料観覧者							
平22年度	1,853	6,206	8,059	—	—	—	236	670	8,965
平23年度	1,740	15,184	16,924	2,599	4,534	—	412	4,421	28,890
平24年度	938	14,645	15,583	—	5,465	—	1,968	356	23,372
平25年度	782	13,874	14,656	1,753	—	—	3,387	370	20,166
平26年度	722	13,589	14,311	2,827	—	—	4,167	336	21,641
平27年度	836	15,229	16,065	1,831	—	—	2,898	527	21,321
平28年度	690	17,249	17,939	2,905	—	8,439	4,521	844	34,648
平29年度	621	13,566	14,187	1,746	—	2,592	3,282	430	22,237
平30年度	540	12,378	12,918	1,835	—	—	3,174	649	18,576
令元年度	475	14,347	14,822	1,481	—	—	3,047	479	19,829
令2年度	879	5,896	6,775	546	—	8,230	380	1,823	17,754
令3年度	747	5,149	5,896	783	—	12,715	672	419	20,485
令4年度	718	6,973	7,691	1,247	—	21,662	3,716	682	34,998
累計	11,541	154,285	165,826	19,553	9,999	53,638	31,860	12,006	292,882

(※) 特別陳列は自主事業のみの観覧者数。その他は、人権啓発展と共催事業を合わせた観覧者数

VIII 施設の概要

1. 沿革

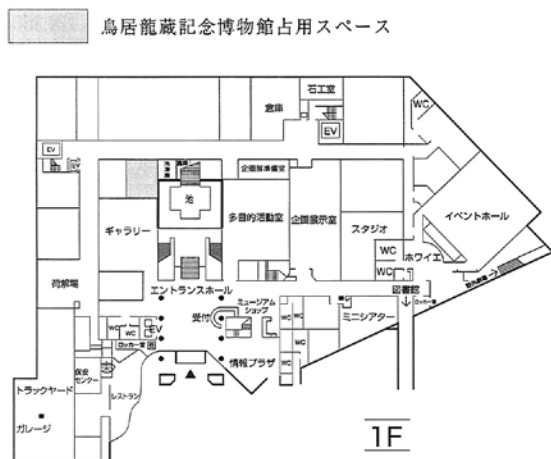
- 昭和40年 3月 鳴門市撫養町の妙見山に旧館（徳島県立鳥居記念博物館）開館
- 平成18年 7月 鳥居龍蔵博士の顕彰等に関する検討委員会設置
- 19年12月 鳥居龍蔵博士の顕彰等に関する検討委員会が「鳥居龍蔵博士の顕彰等に関する検討委員会報告書」を知事に提出
- 20年 3月 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館展示検討委員会設置
- 7月 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館展示検討委員会が「徳島県立鳥居龍蔵記念博物館（仮称）展示計画書」をとりまとめ
- 21年 3月 展示実施設計完了
- 7月 展示工事着手
- 22年 3月 旧館閉館
- 9月 展示工事竣工
- 11月 開館
- 28年 1～2月 開館5周年記念事業として、企画展「鳥居龍蔵—世界に広がる知の遺産—」及び国際講演会「鳥居龍蔵の再発見—国内外の視点から—」を開催

- 令和2年 4月 教育委員会から知事部局に移管
- 3年 2月～3月 鳥居龍蔵生誕150周年記念・開館10周年事業として、「鳥居龍蔵生誕150周年記念全国高校生歴史文化フォーラム 2020 in 徳島」及び国際シンポジウム「鳥居龍蔵と現代社会—その学問と資料の意義を問う—」などを開催
- 4年 9月 国立台湾史前文化博物館と連携協定を締結

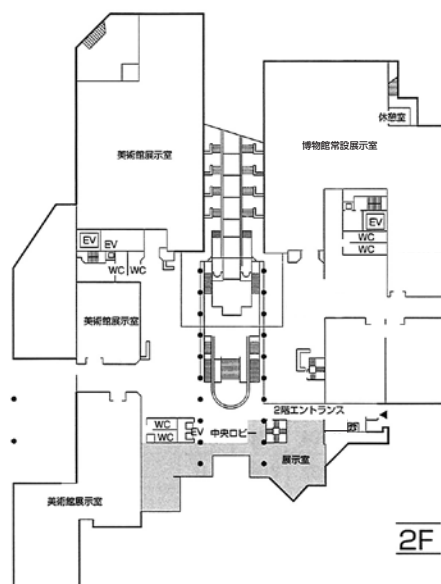
2. 施設の概要

- 所在地 徳島市八万町向寺山
- 敷地面積 40.6ha（文化の森総合公園全体）
- 延床面積 485㎡（展示室、収蔵庫、器材庫等鳥居龍蔵記念博物館占用スペース）
- 構造規模 鉄筋コンクリート造 地上4階・塔屋1階・地下1階
- 改築工事 岡島建築事務所（設計）・小野建設（施工）
- 展示工事 (株)丹青社（設計・施工）

1階平面図



2階平面図



(※) 鳥居龍蔵記念博物館の占用スペースのない階は平面図を省略した。

IX 例 規

●徳島県文化の森総合公園文化施設条例〔抜粋〕

制 定 平成2年3月26日 徳島県条例第11号

最近改正 令和4年3月18日 徳島県条例第10号

(設置)

第1条 個性豊かな県民文化を振興し、魅力のある地域づくりに寄与するため、県民の文化活動の拠点として、徳島県文化の森総合公園文化施設（以下「文化施設」という。）を徳島市八万町に設置する。

(名称及び業務)

第2条 文化施設の名称及び業務は、次のとおりとする。

名 称	業 務
徳島県立鳥居龍蔵記念博物館 (以下「鳥居記念館」という。)	1 鳥居龍蔵に関する資料（以下「鳥居記念館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。 2 鳥居記念館に関する調査研究を行うこと。 3 鳥居記念館資料に関する講座等の教育普及事業を行うこと。 4 その他鳥居記念館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

(利用の許可)

第3条 (省略)

(観覧料等)

第4条 博物館が展示する博物館資料、美術館が展示する美術館資料又は鳥居記念館が展示する鳥居記念館資料を観覧する者に対しては、別表第1に掲げる額の観覧料を徴収する。

2 (省略)

3 知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料又は使用料の全額又は一部を免除することができる。

4 観覧料及び使用料の徴収の時期及び方法その他観覧料及び使用料に関し必要な事項は、規則で定める。

(損害の賠償)

第5条 文化施設を利用する者は、文化施設の施設、資料等をき損し又は亡失したときは、これによって生じた損害を賠償しなければならない。ただし、知事は、当該き損又は亡失がやむを得ない理由によるものであると認めるときは、その賠償責任の全部又は一部を免除することができる。

(職員)

第6条 図書館法（昭和25年法律第118号）及び博物館法（昭和26年法律第285号）に定めるもののほか、文化施設に、館長その他必要な職員を置く。

(協議会)

第7条 知事の附属機関として、次の表の上欄に掲げる協議会を置き、これらの協議会の所掌事務は、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

協 議 会 の 名 称	所 掌 事 務
徳島県立鳥居龍蔵記念博物館協議会	鳥居記念館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べること。

2 協議会は、委員10人以内で組織する。

3 徳島県立図書館協議会、徳島県立博物館協議会、徳島県立近代美術館協議会及び徳島県立鳥居龍蔵記念博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから任命するものとする。

4 (省略)

5 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

6 委員は、再任されることができる。

7 前各項に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、規則で定める。

(規則への委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、文化施設の管理に関し必要な事項は、規則で定める。

別表第1 (第4条関係)

区 分	単 位	金 額			
		常 設 展		企 画 展	
		個 人	団 体 (20人以上をいう。以下同じ)	個 人	団 体
美術館及び鳥居記念館資料	小・中学生	1人1回	50円	40円	知事はその都度定める額
	高校・大学生等	1人1回	100円	80円	
	一 般	1人1回	200円	160円	

(備考)

「小・中学生」とは小学校の児童及び中学校の生徒並びにこれらに準ずる者を、「高校・大学生」とは高等学校の生徒並びに高等専門学校及び大学の学生並びにこれらに準ずる者を、「一般」とは小・中学生及び高校・大学生等以外の者(学齢に達しない者を除く。)をいう。

●徳島県立鳥居龍蔵記念博物館管理規則

制 定 令和2年3月24日 徳島県規則第50号

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島県立鳥居龍蔵記念博物館(以下「鳥居記念館」という。)の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(休館日)

第2条 鳥居記念館の休館日は、次に掲げるとおりとする。

(1) 月曜日(月曜日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときは、その日後においてその日に最も近い休日でない日)

(2) 1月1日から同月4日まで及び12月29日から同月31日まで

2 知事は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、臨時に休館し、又は同項に規定する休館日に開館することができる。

(供用時間)

第3条 鳥居記念館の供用時間は、午前9時30分から午後5時までとする。

2 知事は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、同項に規定する供用時間を変更することができる。

(遵守事項)

第4条 鳥居記念館を利用する者は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例(平成2年徳島県条例第11号)及びこの規則並びに知事が別に定める利用者心得その他の規律を守らなければならない。

(入館の禁止等)

第5条 知事は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を禁止し、又は退館を命ずることができる。

(1) 泥酔者及び伝染性の疾病にかかっていると認められる者

(2) 前条の規定に違反し、又はそのおそれがある者

(資料の特別利用)

第6条 学術その他の目的のために鳥居記念館資料の撮影、模写等をしようとする者は、あらかじめ、知事の承認を受けなければならない。

(補則)

第7条 この規則に定めるもののほか、鳥居記念館の管理に関し必要な事項は、知事が別に定める。

●徳島県立鳥居龍蔵記念博物館協議会規則

制 定 令和2年3月24日 徳島県規則第44号

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号）第7条第7項の規定に基づき、徳島県立鳥居龍蔵記念博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項定めるものとする。

(会長及び副会長)

第2条 協議会に、会長及び副会長各1人を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によって定める。

3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第3条 協議会の会議は、会長が招集する。

2 協議会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ、開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(雑則)

第4条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

●徳島県行政組織規則 [抜粋]

制 定 昭和42年3月28日 徳島県規則第15号

最近改正 令和5年5月31日 徳島県規則第31号

第1章 総 則 (省略)

第2章 事務部局 (省略)

第3節 センター等

第1款 設置等

(法令又は条例の規定により設置されたセンター等の名称等)

第34条 前条第1項に規定する機関のほか、次の表の上欄に掲げる部に、それぞれ同表の下欄に掲げる機関を設置する。

部及び局	機 関		
	名 称	設置の目的又は根拠法令	位 置
未来創生文化部	徳島県文化の森振興センター	徳島県文化の森総合公園文化施設の運営を総合的に推進するため	徳島市八万町

2 次の表の上欄に掲げる機関については、それぞれ同表の下欄に掲げる法令又は条例の規定により設置された機関を当該上欄に掲げる機関を構成する機関とする。

機 関	法令又は条例の規定により設置された機関		
	名 称	位 置	所管区域
徳島県文化の森振興センター	徳島県立鳥居龍蔵記念博物館（以下「鳥居記念館」という。）	徳島市八万町	

第2款 内部組織及び分掌事務

(分掌事務)

第36条 センター等の分掌事務は、別表第6に掲げるとおりとする。

第3款 職及び職務

(所長)

第38条 センター等に所長（(省略) 図書館、博物館、美術館、文書館、二十一世紀館、鳥居記念館（省略）にあつ

てはそれぞれの機関の名称を冠した長（省略）。以下この款において「所長」という。）を置く。

2 所長は、上司の命を受け、当該機関の事務をつかさどり、所属職員を指揮監督する。

(副所長等)

第39条 前条に規定する職のほか、次の表の上欄に掲げる職をそれぞれ同表の下欄に掲げる機関に置く。

職	機 関
副 館 長	(1)図書館 (2)博物館 (3)美術館 (4)文書館 (5)二十一世紀館 (6)鳥居記念館

2 副所長、副校長、副館長及び副課長の職務は、上司の命を受け、所長を補佐するものとする。

(主幹等)

第41条 前3条に規定する職のほか、必要と認めるときは、次の表の上欄に掲げる職をセンター等又はセンター内課等に置き、その職務は、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

職	職 務
課 長	上司の命を受け、センター等の重要施策又は重要事業の推進に関する事務又は試験研究のうち高度の知識又は経験を必要とするものを処理する。
課長補佐	上司の命を受け、センター等又はセンター内課等の重要施策又は重要事業の推進に関する事務に従事する。
首席学芸員	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の重要施策又は重要事業の推進に関する資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。
主 査	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする事務に従事する。
専門学芸員	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。
係 長	上司の命を受け、センター等又はセンター内課等の事務に関し命ぜられた事項を処理する。
学芸係長	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。
主 席	上司の命を受け、特に命ぜられた相当の知識又は経験を必要とする事務に従事する。
主 任	上司の命を受け、相当の知識又は経験を必要とする事務又は試験研究の業務に従事する。

(主任主事等)

第42条 前38条から前条までに規定する職のほか、センター等又はセンター内課等に、別表第4の上欄に掲げる職のうち必要な職を置き、その職務は、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

第3章 附属機関

第57条 附属機関の名称及び庶務を担当する組織は、別表第8に掲げるとおりとする。

別表第4 主任主事等の職及び職務

職	職 務
主任主事	上司の命を受け、相当の経験を必要とする事務に従事する。
主 事	上司の命を受け、事務に従事する。
主任学芸員	上司の命を受け、相当の経験を必要とする博物館、美術館又は鳥居記念館の資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。
学 芸 員	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。

別表第6 主任主事等の職及び職務

センター等	分 掌 事 務
鳥居記念館	(1)鳥居龍蔵に関する資料（以下「鳥居記念館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。 (2)鳥居記念館資料に関する調査研究を行うこと。 (3)鳥居記念館資料に関する講座等の教育普及事業を行うこと。 (4)その他鳥居記念館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

別表第8 附属機関の名称及び庶務を担当する組織

	名 称	庶務を担当する組織
74	徳島県立鳥居龍蔵記念博物館協議会	鳥居記念館

徳島県立鳥居龍蔵記念博物館年報 第13号 (令和4年度)

令和5年(2023)7月31日 発行

編集・発行：徳島県立鳥居龍蔵記念博物館

〒770-8070 徳島市八万町向寺山

(文化の森総合公園内)

Tel. 088-668-2544 Fax. 088-668-7197

Eメール torii-museum@bunmori.tokushima.jp

ホームページ <https://torii-museum.bunmori.tokushima.jp/>

印 刷：徳島県教育印刷株式会社
